

ピアノ・ミュージックフェスティバル・セレクション7

1. さくらんぼの実る頃／A. ルナール

SMFあり ★☆☆☆☆

優しいそよ風が吹いているような、そんなイメージです。ピアノの音は少なくとも、バック（SMF ミュージックデータ）のオケにはたくさんの和音が詰まっています。よく耳を澄ませてそれに乗って丁寧に弾きましょう。[D]のところから左手がメロディーになるので、右手の伴奏は跳ねすぎないように柔らかく、そして全体的には誰かにお話を聞かせてあげているような、そんな気持ちでゆったりと演奏できると良いでしょう。

2. ミスター・サンドマン／ザ・コーデッツ

SMFあり ★★☆☆☆

リズムに乗って楽しく歌っているように演奏しましょう。右手はコーラスグループをイメージしたアレンジにしています。和音はタイミングをそろえて軽やかに弾んで、スラーのところはなめらかで流れるように演奏して下さい。左手はベースです。リズムカルに裏拍の休符を意識して弾いて下さい。[A]イントロ、[E]エンディングは「ボン、ボン、ボン…」と弾んだスタッカートにしましょう。[D] cresc.の小節からスラーが続きます。その切れ目にプレスをイメージすると、それぞれのフレーズがハッキリします。

3. 私は最強／Ado

SMFあり ★★☆☆☆

明るく爽快なロックのリズムに乗せて色鮮やかに表現しましょう。データを使う際はリズムやベース音などを良く聴いて一定の速度で弾けるようにしましょう。冒頭は音を弾く前の拍感を意識して、次の音に気持ちを乗せるように、それに続くアウフタクトのフレーズも丁寧なタッチでバランス良く弾きましょう。[B]はタイや休符を正確に捉えて、キメのリズムに緊張感が加わるようにベストなタイミングで気持ち良く決めてください。[C]はワクワクした気分でもう一度、2小節毎に弾くフィルイン(左手)は、やや控えめに弾くと良いでしょう。[D]はニュアンスを少し変化させて伸びやかに表現し、左手は柔らかなタッチで弾いてください。[E]は前半と後半で伴奏型が変化しています。それぞれ拍を意識して突き進んでいくようなイメージでエネルギーに締めくくりましょう。全体を通してリズムをはっきりと感じながらフレーズに合わせた表現を工夫してください。また、左手の重音も余裕を持ってメロディーを支えることも重要なポイントになるでしょう。

4. 楽しみを希う心／マイケル・ナイマン

★★★☆☆

この曲は、メロディーが物語るようにメッセージ性が強い楽曲です。16分音符刻みの和音の中でメロディーが立体的に浮き出してくるイメージで演奏してみてください。和音の移り変わりもまるで絵を描いているように優しくグラデーションをつけるように表現してみましょう。また短調や長調色々な表情を、それぞれ演奏される方が感じた「色」で奏でてみてください。またペダルの使い方も音があまり濁らないように耳をよく使ってベタリングしてみてください。テンポも心地よく揺れていくように心がけましょう。

5. スピーチレス／アラン・メンケン

SMFあり ★★☆☆☆

豊かな響きとメロディーの説得力を演奏で表現することがポイントです。イントロ～[C]ではペダルを上手に使うことで柔らかくやや神秘的な響きを作り出すように、一方[D]ではリズムのキレを強調、[F]ではメロディー、リズムともに力を込めて山場を表現するなど、曲全体のストーリーの起伏をたっぶり表現しましょう。技術的には[C]、[G]の伴奏パターンの幅の広いアルペジオが核心となりますが、手のポジション移動をあらかじめ工夫してよく慣れるように、またここでは伴奏の音量に負けないようにメロディーをのびのびと歌うことも大切です。

6. いとをかし／椎名 林檎

★★★★☆

ガチャガチャとおもちゃ箱をかき回していたら、懐かしくて綺麗なおもちゃたちが見つかった、すると彼らは突然飛び出してきて自由気ままに飛んだり跳ねたり踊ったり・・・！そんなイメージを表現できると良いでしょう。素早い音の変化は切れ切れにならないようにペダルを細かく使ってしっかり鳴らしてください。早い展開や転調など、ちょっと難しい曲ですが、何が起ころのかわからないワクワク感を持って、楽しみながら演奏できると良いと思います。

7. ポル・ウナ・カベサ／カルロス・ガルデル

SMFあり★★★★☆

タンゴの名曲で原曲は歌ですが、映画などでよく使われているインストゥルメンタルアレンジをベースにしています。どことなく懐かしくて穏やかな長調のパート（[A][C]）と、哀愁と激しさを感じる短調のパート（[B][D]）が交互に出てきます。短調パートに入る前のきっぱりとしたキメ、長調パートに戻るフレーズの終わり方を意識し、メリハリをつけて弾き分けましょう。特に[C]は軽やかで小粋なソロとなるよう、楽譜通りのかっちりしたリズムではなく少し“ため”を持つなど、自由にアーティキュレーションを考えてみましょう。短調パートの繰り返し[E]は前半だけ4つ打ちのタンゴのリズムに変化しています。曲を通して表情豊かに演奏しましょう。

8. チノカテ／ヨルシカ

SMFあり★★★★☆

全体を通して正確なリズムを維持しつつ、リラックスした表情と軽快なタッチを損なわずに弾くのがポイントです。メロディーは軽さと遊び心を持って、歌としての自然なアクセントやアーティキュレーションをほど良くつけて表情を出してください。伴奏パターンはビート感をはっきり意識し、拍の頭や3拍目手前の食いを正確なタイミングで、またスラーのついた16分音符のペアは表（拍の頭）にしっかりアタックをつけ、裏は流れに付属するように軽く弾くのがコツです。右手・左手とも、重音を含むポジションの移動・跳躍の指づかいをあらかじめよく考えて慣れるようにしましょう。

9. つながる心／清塚 信也

★★★★☆

原曲のアルバム・バージョンの演奏をなるべくそのまま再現したアレンジです。強弱記号や rit. a tempo などの指示の箇所に限らず、全体に自在な強弱変化やアゴーギクを用いてたっぷり豊かに表現するとよいでしょう。主旋律と合いの手・対旋律の関係がやや複雑で音域が近くなっている所があります。タッチの使い分けで音色や強さに対比をつけて、明瞭かつ立体的に区別して表現できるとよいでしょう。また動きの幅の広いフレーズでは、五線の上下段にこだわらず右手・左手の受け渡しなども各自工夫してなるべく楽に、なめらかに弾けるようにしましょう。

10. ジャイアント・ステップス／ジョン・コルトレーン

SMFあり★★★★☆

この曲はコードの移り変わりが激しく展開している楽曲です。常にビート感を忘れずあまり重くならないよう演奏を心がけてみてください。また1つのテーマでいろいろな拍子・テンポ感・コード感によって表情が変わっているアレンジになっています。特にリハーサル番号[A]、[B]の部分はあまりテンポにとらわれず自由に演奏してみてください。そして[C]からガラッと表情が変わって楽しく演奏してもらえたら嬉しいです。